

# 執筆者としての人生の再構築

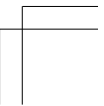
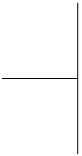
倉下忠憲 著

2020-08-26 版 発行



# 目次

<b>執筆者としての人生の再構築</b>	<b>1</b>
prologue 執筆者としての人生の再構築 . . . . .	1
section1 トライアングル計画について . . . . .	1
■具体的な動きについて . . . . .	2
■ Web サイト作り . . . . .	2
■文章化の候補 . . . . .	3
■企画案の候補 1 . . . . .	3
section2 来るべき仕事術（自己啓発、タスク管理）について . . .	4
■文章化の候補 2 . . . . .	4
section3 その他の活動について . . . . .	5
■カーそるについて . . . . .	5
■ Python の学習 . . . . .	5
■倉下忠憲アーカイブズについて . . . . .	5
■書評活動について . . . . .	5
epilogue 改めての決意と注意点 . . . . .	6



# 執筆者としての人生の再構築

2020年5月10日,11日,13日,14日,15日

## prologue 執筆者としての人生の再構築

これからどんなことを、どんな風に書きたいのかについて書いていく。

ベースは、これからの自分の人生を「執筆者」として再構築していくことだ。言い換えれば、主目的を「本作り」において、そのための環境整備と時間の使い方をすること。一日のうち、一時間から二時間は本の執筆にあてる。それ以外の時間は、やがて本になりそうな原稿を書いたり、メモを整理したり、あるいは読書をしたり読書メモを作ったり、ということになるだろう。

進めたい企画としては、大きく三つの柱がある。

## section1 トライアングル計画について

2020年5月11日のメルマガ500号で書いた「読む・書く・考える」のトライアングルという文章が自分にとって強いインパクトがあった。実際には、その記事を書くために行ったアイデア出しが衝撃的だった。非常に広がりのある、心地よいアイデア出しができた。

結果的に、書き出された1万字の記事も自分にとっても面白いものだったが、それ以上に何か大きい「本」となる予感があった。これからの執筆活動は、この予感に関連づけていきたい。とすれば、さまざまな執筆活動を、こ

## 第0章 執筆者としての人生の再構築

---

の幹の枝にしていくことになる。幸い、この「本」は順序立てた話にはならないだろうから、ばらばらに書いていっても、あとで「まとめる」ことは容易なように思える。よって、今年の後半は、このコンテンツの拡充に向けて書き仕事を進めていきたい。それが一つの大きな展望である。

### ■具体的な動きについて

主にメルマガで本の中身になる記事を書いていく。想定しているのは一万字レベルの記事だが、実際はもっと小さなコンテンツもこの本には含められるだろう。非常に粒度の大きな話と、小さな話が混在する本、というのがイメージしている形である。パタン・ランゲージの三段階（町・建物・施工）が、区別なく混在している本。強いて置き換えれば（知的生産領域・本・コンテンツ（文体））の三構造と言えるだろうか。本はもちろんノートも含む。

とりあえず、「知的生産」というものから一つ階層を上がることをイメージすること。知的生産を捨て去るのではなく、より包括的な概念の中に位置づけること。それが目指したいところだ。

おそらく「断片からの創造」もこの読む・書く・考えるのトライアングルと同じ階層の位置づけになるだろう。

### ■ Web サイト作り

新しい Web サイト作りも、ここに関連付けられる。知的生産の技術の入門コンテンツを扱うサイトだが、それだけに留まらず、「読む・書く・考える」に関する記事を集めるためのサイトという位置づけだ。これまで自分が書いてきたいくつかの記事も、ここに再編できるだろう。R-style のいくつかの記事、ないしは連載ものも抜粋して移してきてもよい。

探求活動も、それ自身独立的に捉えるというよりは、この執筆活動の一環というか、それを下支えするものとして位置できると思う。その方が方向性はよりはっきりする。

## 第0章 執筆者としての人生の再構築

---

### ■文章化の候補

- 『勉強の哲学』勉強論（自己啓発）から変身論へ
- 価値ある文章を紡ぐこと
- お金を払う気持ちのないコンテンツを大量に読んでいることについて
- 窓のある書斎
- 執筆の再帰性についての数学的検討
- 現代において本を読むことについて
- ブログよランダムであれ
- 間（ま）と余白の話
- ズレが持つ価値
- ゆっくりを取り戻す（速さの自由を取り戻す）
- インターネットとの付き合い方をもう一度検討する
- 今のインターネットの何が悪いのか
- インターネットのPV 戦略のコスト感

### ■企画案の候補 1

- 『Scrapbox 知的生産術』
- 『Evernote 荒技 50 選』
- 『書くためのエンジン』
- 『やがて悲しきインターネット』

## 第0章 執筆者としての人生の再構築

---

### section2 来るべき仕事術（自己啓発、タスク管理）について

タスク管理についても、「読む・書く・考えるのトライアングル」と同じように一つの大きなまとまりとして捉えて、その中身を拡充するような進め方をしたい。また、タスク管理の手法で終わるのではなく、その奥にある哲学についても触れる文章を書きたい。

GTD などの各種手法を検討しながら、どんな風にタスク管理を進めていけばいいのかを検討する。

- 自分と、その取説について。
- 自己管理とその審級について。社会からの要請と自己規範
- 裁量の大きさによってタスク管理が違うことについて

こうしたことをいろいろ書いていきたい。

#### ■文章化の候補 2

- 自分を動かす
- タスク管理は二度破綻する
- 優先順位とは何か？
- 社会の規範と自分の規範
- inbox 再考
- 何をインボックスに入れるのか
- アイデアとインボックスの相性の悪さ（さまざまな苦闘）
- 再びインボックスについて
- インボックスゼロという考え方



## 第0章 執筆者としての人生の再構築

---

### section3 その他の活動について

『Re:vision』は、徐々に原稿が集まっているので、方向性を調整しながら書き進めていく。Tak.さんのラインとは逆方向のラインで進めていくこと。その上で、最後に出てくる何かに期待すること。

#### ■カーそるについて

まずは、「デジタルノートのディストピア」を書き上げる。そして、第四号以降はもっとラフに発行していくようにする。自分の一万字の原稿をもっと増やすためにも、さまざまな人をこの活動に巻き込むためにもそれが良いだろう。

#### ■ Python の学習

期待したいことは、エディタ作りとさまざまな自動処理。また、自分なりのメモ管理システムを作ってみたい。ダッシュボード込みでのメモシステム。

#### ■倉下忠憲アーカイブズについて

「執筆の現象学」など、広く読まれ引用されたい文章を集めておくための場所。R-style の良い記事などをピックアップしてもいい。

#### ■書評活動について

現状書きたいと思っている書評の本をリストアップしておく。

- 『教師の iPad 仕事術』
- 『遅いインターネット』

### epilogue 改めての決意と注意点

もちろん、ここまで書いたことが、書いたようにスムーズにいくとは限らない。また、途中で構造が変わってしまうことも十分にありえる。

自分の興味は、知的活動全般に向いていることに気がついた。

ある程度大きめの目標を持っていないと、つい簡単に書けることばかりを書いてしまう。140字のつぶやきや、2000文字の記事で思考を満足させてしまう。その構図を変えていくことが、今後の執筆活動には重要になっていくだろう。具体的には、1万字規模で何かを言う訓練をするということ。

アイデアはたくさんある。あとは技能を磨き、引き出しを増やしていくことだ。

とりあえず、アイデアだしや検討は一時間で切っておく。こうして書き出したものを、アウトラインとして整理すれば、見やすいものになる。 #指針

# 執筆者としての人生の再構築

---

2020 年 8 月 26 日 初版第 1 刷 発行

著 者 倉下忠憲

---